

資料番号	3
------	---

令和8年2月12日
課 名 地域政策局 平和推進プロジェクト・チーム
担当者 担当課長（平和推進担当）山本
内 線 2368

国連総会第一委員会への参加結果について

1 要旨・目的

米国ニューヨーク国連本部で開催された国連総会第一委員会へ、へいわ創造機構ひろしま（HOPe）から島田久仁彦プリンシパル・ディレクターが参加し、県やHOPeの取組を発信するとともに、各国へ核兵器廃絶に向けた取組の強化について働きかけを行った。

2 現状・背景

国連第一委員会は、国連総会の下に設置されており、毎年秋に開催される。各国政府の代表者が参加し、軍縮と国際安全保障に関する議論が行われる。

3 概要

キリバス、マルタ、カザフスタンが主催するサイドイベントへ参加したほか、ニューヨークの各国政府代表部の関係者等と直接面会し、県やHOPeの取組への賛同を働きかけた。

【日程】

（月日は現地時間）

月日	行 事	場 所
10/16 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイドイベント参加（キリバス・マルタ・カザフスタン主催） ・ 国連環境計画（UNEP） ・ 国連ドイツ政府代表部 ・ 国連ニュージーランド政府代表部 	ニューヨーク
10/17 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国連コスタリカ政府代表部 ・ 非公式会合への参加（ニュージーランド主催、南アフリカ・オーストリア共催） ・ 国連アイルランド政府代表部 	

(1) 対象者

各国政府関係者、国連総会参加団体

(2) 事業内容

ア サイドイベントへの参加

テーマ：核兵器及び放射能による女性への影響

参加者：キリバス、マルタ、カザフスタン、UNODA（国際連合軍縮部）、
ICRC（赤十字国際委員会）、Nuclear Age Peace Foundation（核時代
平和財団）、HOPe等

内 容：

- ・ HOPeからは、持続可能性アプローチを中心とした取組を説明した。
- ・ 女性の方が放射能による悪影響をより受けていることを認識すべきである、核軍縮及び核廃絶の議論、軍備管理、被害者支援などに、女性の声が反映されるべきであるといった意見が述べられた。

イ 非公式会合への参加

参加国：ニュージーランド、南アフリカ、オーストリア、マレーシア、タイ、
キリバス等 計 36 か国、I C A N（核兵器廃絶国際キャンペーン）、
I C R C、H O P e

内 容：

- ・H O P eからは、持続可能性アプローチを中心とした取組を説明し、賛同を得た。
- ・T P N Wの加盟国を増やすための戦略を主なテーマとして、来年のT P N W第1回
検討会議に向けた戦略と今後の進め方について議論が行われた。

ウ 政府関係者等との会合

国連政府代表部の政府関係者等と面会し、核兵器を取り巻く国際情勢や今後の展望、
持続可能性アプローチを中心としたH O P eの取組等について意見交換を行った。ま
た、来年のN P T運用検討会議及びT P N W第1回検討会議等への参加について助言が
あった。

〔面会相手〕

- ・U N E P ジャミル・アフマド政府間関係部門長
- ・国連ドイツ政府代表部 トーマス・ゲーベル常駐代表大使
- ・国連ニュージーランド政府代表部 デボラ・ギールス常駐代表
- ・国連コスタリカ政府代表部 マリツァ・チャン常駐代表
- ・国連アイルランド政府代表部 マーガレット・マーフィー参事官

4 予算（単県）

11,314 千円

5 成果

〔国連総会第一委員会への貢献〕

国連総会第一委員会参加の政府関係者等に対して、本県／H O P eの3つのアプローチの
提唱と、これに基づく持続可能性の観点から核兵器廃絶と核軍縮に取り組むことの重要性を
訴えることができた。

〔発信力の強化と賛同者の拡大〕

H O P eが提唱する「持続可能性の観点から核兵器問題を提起するアプローチ」について、
各国政府関係者等に共有し、賛同を得るとともに、今後の活動に向けた具体的な助言を得る
ことができた。